

# 世界の人とふれあいタイム



## 「アメリカの話」

実施日：平成 26 年 9 月 28 日(日)  
場 所：学生交流室・国際交流室

今回のゲストスピーカー、小林 マーシーさんはアメリカ合衆国、西海岸ワシントン州出身で 1992 年に来日し、現在は在任の八王子市と義父母が暮らす広島を往復する生活をされています。

マーシーさんはとても流暢な日本語で、「いつも聞かれるトップ3」などという質問形式でプレゼンを進めました。まず、「人工チタンを埋め込む股関節の手術を受けたことで強くなったこと」、「人前で話すより、ビデオを編集したりするほうを選ぶほどシャイなこと」を 179cm の外見からは想像できないお話から始めました。

小学校の頃から背が高く、担任の先生から“Tall Girl”とニックネームをつけてもらって嬉しかったこと、長い手を見た別の先生が、フルートから、トロンボーンに変更させたことなどを話し、高校ではローズパレードの 100 周年にトロンボーン奏者としてマーチングバンドに参加したときの画像を見せてくれました。また、ご両親から、「自分で調べて、自分でいろんな考えをしなさい」と言われて育ったそうです。愛読書の「ドリトル先生」の影響を受け、「世界を見てみたい、世界より宇宙、インドに行きたかった」と語りました。



マーシーさん



たくさんの質問に沸く、会場の様子

マーシーさんは小さい頃からアレルギーのため、牛乳、卵、小麦粉、柑橘類の制限がありました。アメリカに行くとき好物のピーナツバター、ライスクッキー、ラズベリーを食べ、日本に戻ると、寿司を食べに出かけます。和食の中でとりわけ、なますは好物で、一年中食べるほどだそうです。自然に囲まれた、居心地のよいご主人の実家では日本の料理を作ったり、義父のおしゃべりの聞き役になったりするなど話され、長男の嫁としての立ち居振る舞いも伝わってきました。

地元シアトルについては、マイクロソフト、アマゾン、スターバックス、ボーイング社などいろんな企業がある一方、常に緑（温帯雨林、原生林）があるエバークリーンステイツとも言われています。



マウントレーニア

シアトルにあるマウントレーニア (Mt. Rainier) は日本のコンビニで見かけるコーヒーのラベルに描かれています。

日本に来たきっかけは高校時代、日本からの留学生と友人になり、日本語のコースを取って、楽しかったこと、それから大学時代ドイツに留学していた姉のアドバイスもあったからだそうです。

その後、日本に留まった理由は留学アドバイザーとしての仕事のオファーがあり、また、ご主人も見つけることができたことと語りました。

<Q&A> 日本人男性の良いところについての質問に空気が読めるので、お互いに判っていることを言わないでいいところと回答されました。

日本の「カビ」がマーシーさん夫婦の偏頭痛の原因で引越しを余儀なくされるほどだったそうです。それに対して、来場者からの明るいご意見「ワビ、サビ、カビは日本独特の風土として受け入れて生活している。結局、風通しをよくして、清潔にするしかなかろうか」とあり、会場を沸かせました。

日本の英語教育については、「文法の前に、会話をすること、言い回しを覚えさせたほうがよい。とは言え、日本の高校生が日本語で議論できるのかが疑問。日本語でも同時進行しないといけないのでは」と回答しました。その他、日本独特の言い回しやマスコミの報道についてなど、たくさんの質問に答えてくれました。

アンケートには「一米国人の考え方、気持ちを率直に語って好感が持てた」「日本人から見て意外に思えることが多かった」「楽しい時間を過ごせた」「アメリカの一般的な話だけではなく、ひとりの生き方をアメリカ人の目を通して話された視点は良かった」とありました。

世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉

次回:平成 26 年 11 月 30 日(日)「ミャンマーの話」です。お問い合わせの上、ご参加ください。